

(5) 集団不適応児

語義	集団行動の仲間入りのできない子 集団行動をかき乱す子など。
事例	集団行動の仲間入りを拒否し、粗暴な ふるまいをする子
原因	(1) 家庭内での欲求不満の蓄積 (2) 知能がよくても不満が多い (3) 性格的に問題がある子 (4) 身体的に欠陥のある子 (5) 教師の注意を引きつけたがる子 (6) 何事にも自信を失っている子 (7) 基本的なしつけがつかない子
治療	(1) 各種検査による真因の探究 (2) 生育歴の検討と親子関係の調整 (3) 学校と家庭との意見協力の調整 (4) 担任、級友の協力による面接治療

① 在籍状況

氏名	性	所属
Y・U	男	S小6年

② 現症の概要

ア、担任教師の報告から

- 学習面——理科の実験以外は無関心
- 行動面——神経過敏、暴力、無交友
- 身体面——身体の発達よく学級一番

イ、母親との面接から

- おこりんぼ、いらいらしている。
- 何か考えている時は、通じない。
- なるべく干渉しないようにしている。

③ 症状の起始・経過

ア、粗暴、集団不適応状態は小3からつづいている。

イ、S医大で脳波測定、薬服用

(多動性症候群、情緒障害)

④ 諸検査の結果

ア、WISC知能検査、IQ 137

イ、児童性格検査

- 依存的、学校へ不適応
- 社会性乏しく、寛容さが不足
- 理性的であり、家庭へ適応

ウ、環境適応性検査( )内は段階

- 心理的環境(2) ●物理的環境(3)

⑤ 診断・指導の方針

ア、診断

- 情緒不安 ●粗暴な言動 ●集団不適応

イ、指導の方針

- 粗暴言動の真因をさぐり処置する。
- 担任、級友の協力を得て治療する。
- 家庭と学校との意見を調整する。

⑥ 指導の経過

ア、学校・家庭における問題点話し合う。

イ、行動・性格の特徴について話し合う。

ウ、行動・性格の経過について話し合う。

エ、適応検査、友だちは信用しない。

オ、脳波測定、やゝおそい。

カ、同上結果についての連絡。

キ、金閣寺の工作完成(はじめて)

ク、センターにきたがる、状況をきく。

ケ、はばたき機制作(自己中心の会話)

コ、ペットの飼い方を教えてくれる。

サ、飛行機とばし、級友の反省。

シ、姉さんへの思慕、金魚の話。

ス、はじめて姉さんとよぶ、集団に適応

⑦ 考察

ア、姉に対して「あんな奴」とっていたが思慕の行動はみのがせない。

イ、学校できらいだという級友は、大すきな先生のそばに行くからで、それが粗暴な言動につながっていた。

ウ、ことばだけでなく、物をとおしての愛情表現が親近感を深め、集団適応のみちを開いていた。

エ、逃避のための来所でなく、自分を理解してもらえる喜びからであった。